



令和8年度 東京都北区立王子桜中学校

令和8年10月 第7号

校長 阿久津 光生

〒114-0002

東京都北区王子2-7-1

Tel 03-5902-3155

王子桜だより

共生の精神に満ち、国際的視野に立ち、大きな夢の実現のために限りなく向上に努める人を育てる。

教育目標 自主 創造 飛翔

《祝 ソフトテニス女子・男子個人頑張りました！3位・ベスト8 おめでとうございます！》

8月24日（月曜日）北区中学校ソフトテニス夏季シード権大会・女子個人戦が赤羽岩淵中校庭で、男子個人戦が浮間中校庭で開催されました。炎天下にも関わらず、王子桜中ソフトテニス部女子は、能代・岩崎ペアが第3位！平・高森ペアがベスト8、男子は、杉山・時本ペアがそれぞれベスト8と優秀な成績をあげました。夏休みの練習の成果が大いに発揮できましたね！おめでとうございます！



《祝 ソフトテニス女子団体3位 おめでとうございます！》

8月25日（火曜日）北区中学校ソフトテニス夏季シード権大会団体戦が赤羽岩淵中校庭で開催されました。炎天下にも関わらず、王子桜中ソフトテニス部女子は3位入賞を果たしました。本当におめでとうございます。一昨日の個人戦に続きソフトテニス部のみなさん、お疲れ様でした。



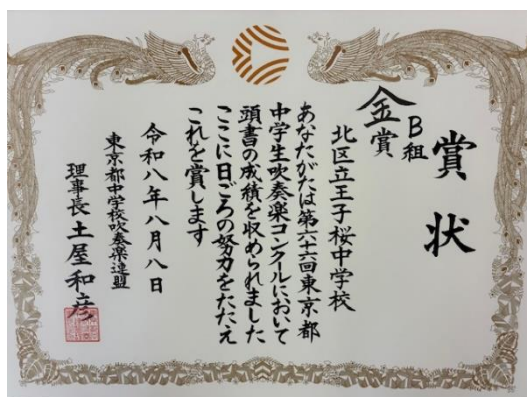
《祝 帖さんバスケットボール優秀選手賞おめでとうございます！》

男子バスケットボール帖さんが第1回チャレンジカップにおいて優秀選手賞を授与しました。本当におめでとうございます。



《祝 吹奏楽部 東京都中学生吹奏楽コンクール ゴールド金賞 おめでとうございます！》

前号でも紹介しましたが8月8日（土）令和8年度第66回東京都中学生吹奏楽コンクールが府中の森芸術劇場ウィーンホールで開催され、見事、ゴールド金賞に輝きました！これで2年連続金賞獲得です。本当におめでとうございます。



《東京都中学校ラグビー秋季大会が行われました！》

9月6日（日曜日）東京都中学校ラグビー秋季大会が成蹊大学グラウンド（武蔵野市）で行われました。今回の試合から二部リーグから一部リーグにランクアップした王子桜中・獨協中、都立小石川中との合同チームは、冷たい雨が降る中、強豪、府中市立第二中学校と対戦しました。勝利には至りませんでしたが、迫力のある戦いで大いに健闘しました。次の大会も頑張ってください。



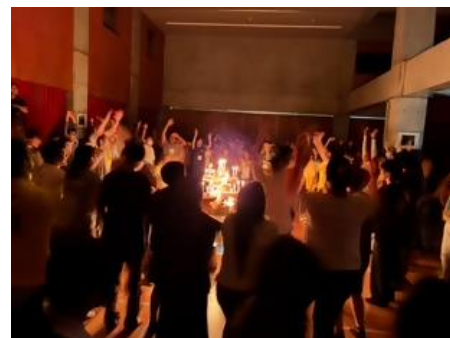
《祝 3年生新垣さん 水泳関東大会ベスト8 おめでとうございます！》

3年生の新垣さんが8月8日から10日に山梨県で開かれた、第50回関東中学校水泳競技大会に出場し、平泳ぎでベスト8に入賞しました。ほんとうに凄いことです！おめでとうございます！正門から見える位置に横断幕が飾られています。



《2年生 EC 那須高原学園しらかば荘に行ってきました！》

2年生は、9月8日（火）～10日（木）の2泊3日で、栃木県那須高原学園のEC（イングリッシュ・キャンプ）に行ってきました。3日間とも、あいにくのお天気でしたが、Group flag づくり等様々なアクティビティをスタッフが用意してくださり、質の高い学習ができました。グループごとのチャレンジラリーは、「しらかば荘」の敷地をフル活用して行われました。英語を話しながら、頭も身体もフル回転！とっても楽しくて、達成感もあり、敷地内の至るところから歓声があがっていました。夜はキャンプファイアーのはずでしたが、雨天のため、室内食堂でキャンドルサービスを行いました。キャンドルサービスの厳粛な儀式的後には、ダンスで最高に盛り上がりました。その後、雨が止んだ園庭で、NOTS スタッフのタカ&ラム&ネズミ&ムサビによるファイアーショーが行われました。難易度の高い驚きの演技に圧巻！拍手と声援が鳴り止みませんでした。雨でも、生徒のみなさんのテンションが下がらないように、様々な工夫をしてくれたスタッフのみなさんに感謝の気持ちでいっぱいになりました。またスタッフの思いに応えようと一致団結して最高の盛り上がりを見せてくれた2年生は、本当に明るく素直で、マナーも良く、思いやりのある素晴らしい生徒だと改めて感じました。終日、ICP Show Time では、それぞれのグループで初日から練習してきた留学生の国の文化を象徴したダンス等を発表してくれました。どの班も実に素晴らしいパフォーマンスでした。退園の際には、スタッフのみなさんが、アーチをつくりギターの弾き語りで、雨に濡れながらも王桜生の乗ったバスのお見送りをしてくださいました。このEC那須の経験は、英語でのコミュニケーション能力を高めただけでなく、目の色、肌の色、言語、習慣が違って、ともに分かり合えること、思いやりや優しい心に国境なんてないことを強く感じた貴重な体験となりました。次世代の国際社会を生きる子どもたちが、国境なき平和や幸福を追求すべく国際理解教育を引き続き推進してまいります。



《 3年生修学旅行に行ってきました！ 》

3年生修学旅行に行ってきました！3年生は、9月13日（日曜日）から15日（火曜日）まで修学旅行に行ってきました。1日目は、新幹線で新大阪に向かい貸切バスで法隆寺→東大寺南大門→東大寺大仏殿→興福寺夜間特別展を見学しました。1日晴れて本当に良かったです。暑かったですが、久しぶりに太陽を見て、みんな感激でした！夕方、京都の宿舎の金波楼に向かいました。2日目は、宿舎から京都市内を1日班別行動で行いました。午後は、朝とは天候がうって変わってどしゃ降りの雨で班行動も大変でしたが、次第に雨も止み、ほぼ時間内に宿に戻れて良かったです！さすが3年生です！宿舎に帰って入浴・食事後、大広間で舞妓鑑賞を楽しみました。普段は中々会うことの出来ない、祇園の舞妓さんによる京舞をはじめ、質問コーナー・舞妓さんからのクイズで盛り上がりました。また、今日まで大切に受け継がれてきた日本の伝統文化や伝統芸能を実際に見ることが出来る貴重な機会となりました。3日目は京都市内タクシー班別行動で、ドライバーさんの案内で見学を楽しむことができました。

3年生の修学旅行スローガンである「Not only You～自ら率先して学ぶ～」誰一人孤独にさせず、全員で楽しみ、「修学」という目的をしっかりと持って積極的に取り組むことができましたね。3年生の皆さん、一人一人がとってもよく頑張り、思い出に残る修学旅行となりました。



《 1年生全員で朝読書の時間 科学伝記マンガ 「高峰譲吉博士物語」を読みました! 》

本日、朝読書の時間に1年生、科学伝記マンガ「高峰譲吉博士物語」を読みました。みなさん、興味深々に読書に集中している姿がとても素晴らしかったです。

解剖学者の養老孟司さんが書いた帯に「明治の国際人、科学者の伝記として素晴らしい！一気に読んでしまいました！！子どもはもちろん、大人にも読んでもらいたい作品です。」と絶賛されている通りの科学伝記マンガです。この本は、港区虎ノ門にあるNPO法人高峰譲吉博士研究会事務局長の長谷部様より1年生全員分を寄贈していただきました。

昨年度は、全校生徒分をいただき、2・3年生はすでにいただいているので、今年も全校生徒が科学伝記マンガ「高峰譲吉博士物語」をもとに楽しく学習することができます。さらに、「先人の教を深く学び研究することで、現代の新しい事柄や問題の本質を理解し、新たな発見や創造につなげることができます、まさに『温故知新』です。

最後にNPO法人高峰譲吉博士研究会事務局長の長谷部様には、夏休み（8月21日）に行われた王子桜中ラボ『未来の高峰譲吉博士は君だ！』（読売新聞にも掲載）で何から何までお世話になり、王子桜中のアントレプレナーシップ教育に多大なるご尽力いただいていることに心より感謝申し上げます。



築地から始まった「自由の学府」立教大学

現在、池袋と新座にキャンパスを持つ立教大学ですが、その発祥の地は、前回掲載させていただいたとおり、当時外国人居留地であった「築地」でした。今では、立教ゆかりのものは残っていませんが、聖路加国際大学の敷地には、「立教学院発祥の地」の記念碑が据えられ、立教と築地の関係を現在に伝えています。立教は、米国聖公会の宣教師、チャニング・M・ウィリアムズ主教によって、1874（明治7）年に創立されましたが、聖路加国際大学の前身、聖路加病院も、同じ米国聖公会の宣教師、ルドルフ・B・トイスラー博士によって、1901（明治34）年に創立されました。立教と聖路加は、ともに築地で生まれた米国聖公会の機関ということもあり、その関係性には密接なものがありました。例えば、聖路加病院が開設された築地居留地 37 番は、ウィリアムズ主教が私財を投じて購入した土地で、病院開設前は、立教の校舎（当時は、立教大学校）が建っていた場所でした。居留地 37 番を後にした立教は、居留地 57～60 番へと移転しますが、その場所こそ、記念碑が据えられている、現在の聖路加国際大学の敷地なのです。創立者ウィリアムズ主教とは、1829 年、米国ヴァージニア州の熱心な聖公会信徒の家庭に生まれました。26 歳の若さで東アジア地域でのキリスト教布教に生涯を捧げる決意を固め、1856（安政3）年、米国聖公会の宣教師として中国へ渡り、3年後の1859（安政6）年には、日本の長崎に上陸。その後、大阪、東京、京都などを活動拠点として、1908（明治41）年に帰国するまで、50 年間にわたって日本でのキリスト教宣教に献身しました。その間、日本聖公会の設立や、立教をはじめとする教育機関、医療機関、教会などの建設に力を尽くしました。このウィリアムズ主教によって創立された学舎は、わずかな教師と生徒で出発しました。西洋文明を歓迎する世の中にあって、生徒数も少しずつ増えていきましたが、1876（明治9）年の大火事により、立教学校は中断されてしまいました。約2年間の中断を経て再開された塾は、1883（明治16）年に、校名を「立教大学校」に変更しました。居留地 37 番に建てられた校舎は、レンガ造りの壮麗なたたずまいを保っていました。教育内容も米国のカレッジにならった高い水準の専門教育が目指され、授業は英語で行われました。その後、世の中が国家主義・国粋主義的な傾向が強まる中で、キリスト教への風当たりが強くなっていきました。他方、官公立学校を中心とした学校制度がえられ、制度外の私立学校の立場は難しいものとなりました。キリスト教主義を掲げてきた私立の立教大学校は、日本人の教員を増やすなど、日本の実情に合わせた改革を行い、校名を再び「立教学校」としました。日々改革を続けてきた立教学校は、1896（明治29）年、「立教尋常中学校」と「立教専修学校」の2つに分けられました。また、翌年には、神田に「東京英語専修学校」が設置され、三校体制になりました。このうち、立教尋常中学校は、1898（明治31）年、中学校令による尋常中学校として東京府知事からの正式な認可を受け、生徒数も順調に増えていきました。導常中学校認可の翌年、1899（明治32）年には、認可を受けた学校での宗教教育や儀式を禁止する「文部省訓令」が私学を所管する東京府にあてて出



「立教学院発祥の地」



創立者ウィリアムズ主教肖像

【提供 立教学院展示館】



最初の校舎となるロングフェロー邸

【提供 立教学院展示館】

されました。この訓令は、立教をはじめとするミッション・スクールに大きな衝撃を与えましたが、立教はこの危機を乗り越えることができました。

立教中学校は、築地明石町の六角校舎のもとで、生徒数を大きく伸ばしました。大学の新設により、築地キャンパスだけでは狭くなり、将来的な発展を考えて、1918（大正7）年9月に大学を池袋へ移転しました。現在でも池袋にある立教大学のシンボルとなっているレンガ校舎群は、ニューヨークにあるマーフィー・アンド・ダナ建築事務所による設計、清水組の施工で建設されました。1919年5月31日に本館、チャペル、図書館、寄宿舍二棟（現・二号館、三号館）、食堂（現・第一食堂）の落成式が盛大に行われました。このレンガ校舎群のレンガには、通常のレンガより高温で焼き込み、吸水性が低く、摩擦や衝撃に強い「焼過ぎレンガ」が用いられ、



築地明石町の六角塔校舎

【提供 立教学院展示館】

当時としては珍しくフランス積と呼ばれる、十字型のパターンとなる積み方が採用されています。さらに、1918（大正7）年の大学令のもと、公立・私立でも大学を設置できるようになり、立教大学も1922（大正11）年に文部大臣が認める正式な大学となりました。1923（大正12）年9月1日の関東大震災により、築地にあった立教中学校は全焼してしまいました。池袋にできたばかりの立教大学のレンガ校舎も大きな被害を受けました。立教が深刻な被害に遭遇しているとの報に接した米国聖公会は、ただちに支援の手を差し伸べ、立教大学の校舎は2年のうちに修復されました。1926（大正15）年5月には、立教中学校の新校舎が池袋に建てられ、大学と中学は再び同じキャンパスに統合されました。



第二次世界大戦中には立教に医学部を設置しようという構想が、たびたび試みられていました。それは、立教と聖路加を合併して、立教大学に医学部を設置する計画でした。文部省の内諾を得るところまでいきましたが、最終的には、病院を管轄する厚生省の反対などもあり、計画は挫折してしまいました。また、戦後の学制改革による新制大学の設置（1949年）に際しても、医学部の開設が決定され、理学部がその前段階教育を担うものとされていました。しかし、肝心の聖路加の病院施設は、GHQによる接收（1956年まで）を受けていたこともあり、実現には至りませんでした。立教を象徴する人物に、ポール・F・ラッシュがいます。

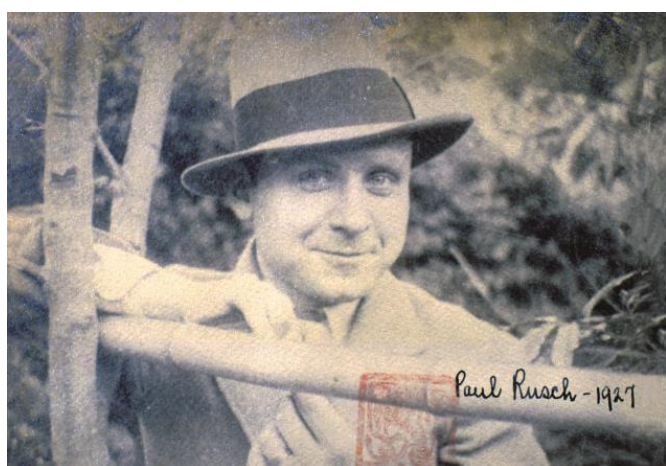
「アメリカンフットボールの父」「清里の父」として知られるラッシュですが、戦前は、立教大学の教授でもありました。戦争により、一時日本を離れていたラッシュでしたが、戦後はGHQの一員として再来日し、立教の戦後復興にも大きな役割を果たしました。戦後の医学部計画は、大学の総合大学化を目指したのですが、同時に、立教と聖路加を中軸に、聖公会の全教育・医療機関を統合しようという、ラッシュの描いた壮大な構想がベースとなっていたのでした。このラッシュの構想が実現することはありませんでしたが、現在、

立教大学は、12 学部 28 学科を擁する総合大学となり、キリスト教に基づく教育を礎とし発展してきました。立教大学は、教育理念であり、校歌にも謳われている「自由の学府」として、世界の第一線で活躍する優秀な人材を多く輩出してきました。そして、さらにグローバルな舞台で活躍できるイノベーション人材の育成に親身になって取り組む伝統ある学び舎なのです。

正面から見た大学建築群

建築間もない池袋レンガ校舎(中央本館・右がチャペル、左が図書館)

【提供 立教学院展示館】



ポール・F・ラッシュ写真

【提供 立教学院展示館】



【メーザーライブラリー記念館】 【立教学院展示館】

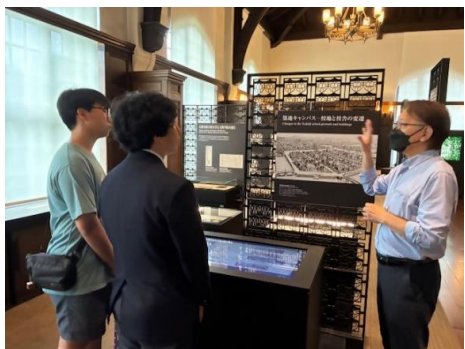


メーザーライブラリー記念館(旧図書館旧館)

【提供 立教学院展示館】

メーザーライブラリー記念館は、本館やチャペルなどの池袋キャンパスのシンボルゾーンを形成するレンガ建造物群の一つで、1919年の落成から2012年まで、図書館本館として多くの学生の学びを支えてきました。米国聖公会の総会代議員として長年外国伝道を後援してきたサミュエル・リビングストン・メーザー氏

の子息であるサミュエル・メーザー氏からの寄付により建てられたことに由来しています。本館、チャペルとともに、本格的なレンガ造りで、立教・池袋を象徴する建物です。東京都歴史的建造物にも選定されています。この2階には、立教の歴史と伝統、教育と研究の取り組みを発信する立教学院展示館があります。先日、本校の生徒と一緒に訪問させていただきました。そして、学術コーディネイター/学芸員の豊田雅幸様に、貴重な資料・写真・ディスプレイ等を時間軸にそって一つ一つ丁寧にわかりやすく教えていただき、立教学院の歴史や魅力についてたくさん学ぶことができました。また、資料館のパフレットや豊田様のご執筆された「立教の学び舎-キャンパスと校舎の移り変わり-」まで頂戴いたしましたことを記して感謝申し上げます。今後の学習に活用させていただきます。



- 参考資料：
- ・立教学院展示館冊子
 - ・立教学院展示館パフレット
 - ・立教の学び舎-キャンパスと校舎の移り変わり- 豊田雅幸著